

平成24年度極域科学専攻在学生アンケート集計結果

1. 趣旨

当専攻の教育課程等に関するアンケートを行い、学生の意見を聴取することで、当専攻の教育課程、教育研究環境等の改善に資することを目的とする。

2. アンケート実施方法

極域科学専攻生にアンケート用紙を個別配布（pdfファイルで配付）し、電子データで回収。

3. 回収率等

- (1) 対象在学生数 14人
- (2) 回答数 8人
- (3) 回答率 57%

4. 集計結果と個別分析

評価基準は各項目共通（自由記述部分を除く）で次のとおり。

「4：強く思う 3：そう思う 2：そう思わない 1：全くそう思わない」

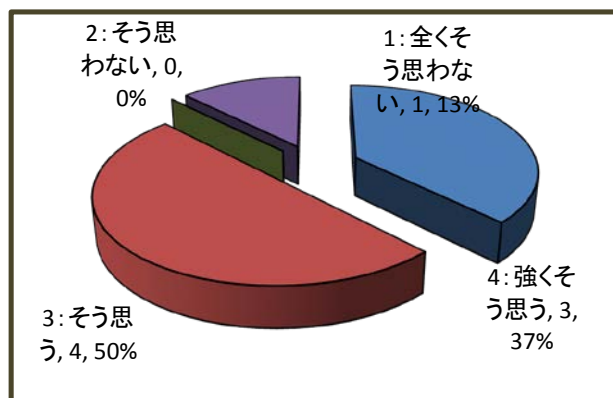
なお、無回答及び該当無しという回答については、集計の対象からは除外した。

コメントは回答結果をもとに事務局が原案を作成し、専攻長が校閲した。

(1) 研究指導について

1) 研究指導を複数の指導教員で行う複数指導体制は機能していると思うか。

4：3件 3：4件 2：0件 1：1件 【平均3.13】

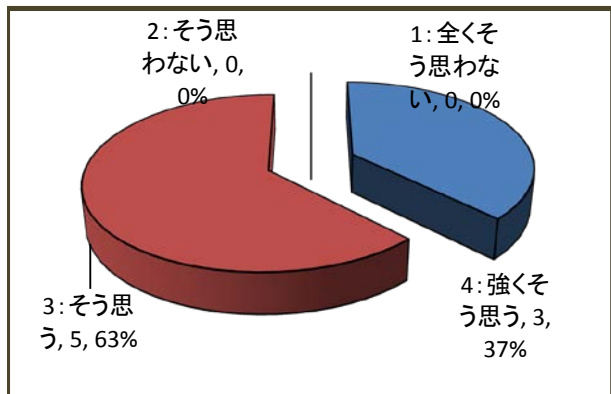


(コメント)

4と3の回答を合わせて7件87%であり、学生は複数指導体制に対し、おおむね満足していると考えられる。しかし、1（まったくそう思わない）の回答が1件あり、検討する必要があると考えられる。

2) 指導教員は研究指導に十分な時間を割いていると思うか。

4 : 3件 3 : 5件 2 : 0件 1 : 0件 【平均3.38】

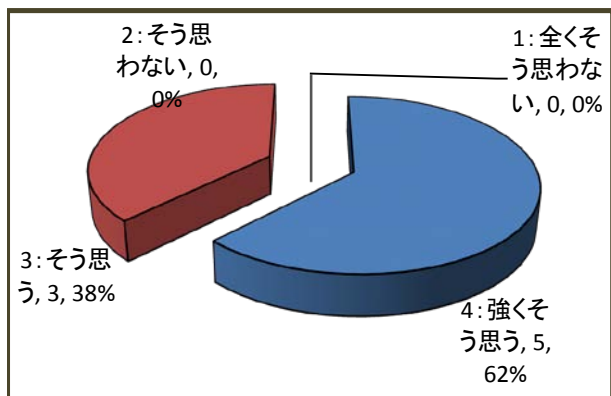


(コメント)

4と3をあわせて、8件100%であり、おおよそ十分な時間を割いて研究指導を行っていると思われている。

3) 指導教員は学生の研究計画策定に関し適切な助言を行い、研究計画の実施に際しては適切に指導を行っていると思うか。

4 : 5件 3 : 3件 2 : 0件 1 : 0件 【平均3.63】

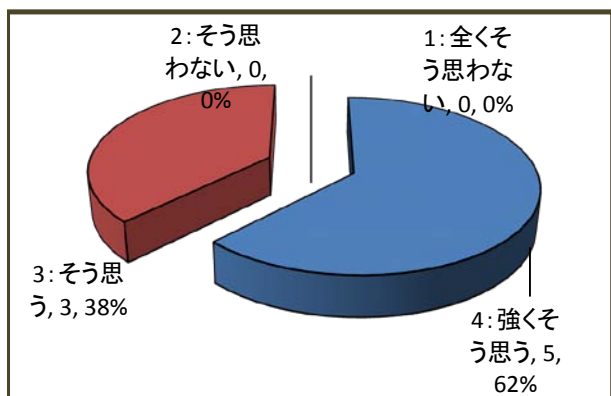


(コメント)

4と3をあわせて、8件100%であり、ほぼ適切な助言及指導を行っていると言える。

4) 総合的に考えて研究指導に満足していると言えるか。

4 : 5件 3 : 3件 2 : 0件 1 : 0件 【平均3.63】



(コメント)

4と3をあわせて、8件100%を数え、ほぼ研究指導に満足していると言える。

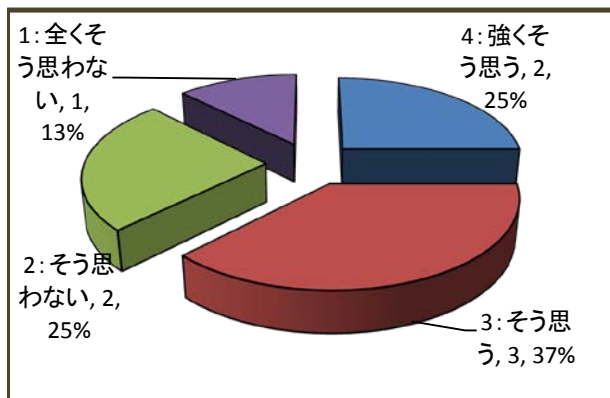
4-1) 言えない場合は、どのような点が満足と言えないのか、又どのような対応をすべきか記載して下さい。(自由記述)

・回答なし

(2)教育課程(カリキュラム)について

1) 専攻で開講している専門科目は当該分野での学位取得に向けて必要な科目を網羅していると思うか。

4 : 2件 3 : 3件 2 : 2件 1 : 1件 【平均2.75】



(コメント)

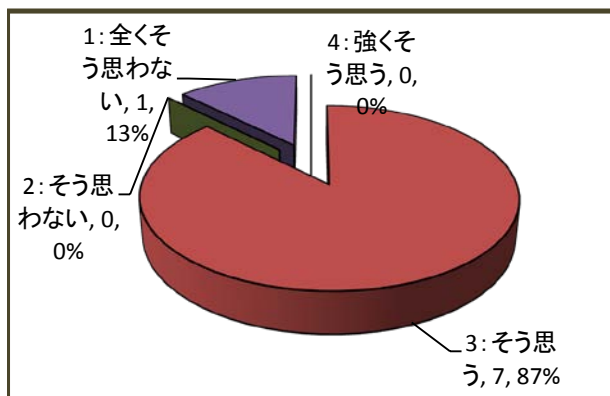
2と1の低い評価が併せて3件38%あり、対応を検討する必要があると考えられる。

1-1) 思わない場合は、どのような授業科目が必要だと考えるか記載して下さい。(自由記述)

- ・自分は“必要”と思うのではなく、必要がないと思われる講義が多いと考える。
- ・極域科学専攻および極地研の性質上、学習取得に向けて必要な科目を網羅することは不可能と思われる。それを学生が認識していることが大事だと思う。
- ・基本的な知識を学ぶことのできる授業(それぞれの専門的な統計学、情報学、論文の書き方など)が少なすぎるように感じる。

2) 研究科で開講している研究科共通基礎科目は、研究科の共通基礎科目として適切な内容だと思うか。

4 : 0件 3 : 7件 2 : 0件 1 : 1件 【平均2.75】



(コメント)

3の回答が7件で87%であり、学生の多くは適切と考えているといえる。

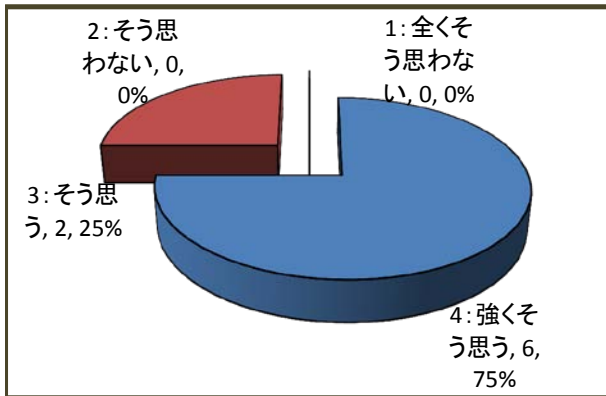
2-1) 思わない場合は、その理由を記載して下さい。また研究科共通基礎科目として開講すべきと考えられる授業があれば記載して下さい。(自由記述)

- ・プレゼン方法等の講義(言語は問わない)。

(3) 教育研究環境(施設及び設備や経済的支援等)について

1) 学生の居室のスペースは十分と思うか。

4 : 6件 3 : 2件 2 : 0件 1 : 0件 【平均3.75】

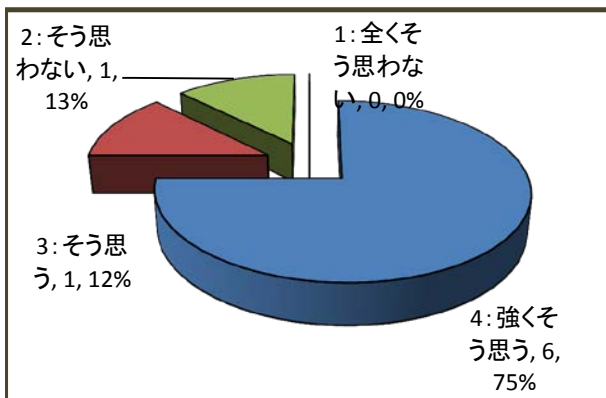


(コメント)

4と3あわせて、8件100%であり、十分な居室スペースが確保されていると言える。

2) 学生が研究活動を実施する上で必要な機器等の設備は十分と思うか。

4 : 6件 3 : 1件 2 : 1件 1 : 0件 【平均3.63】



(コメント)

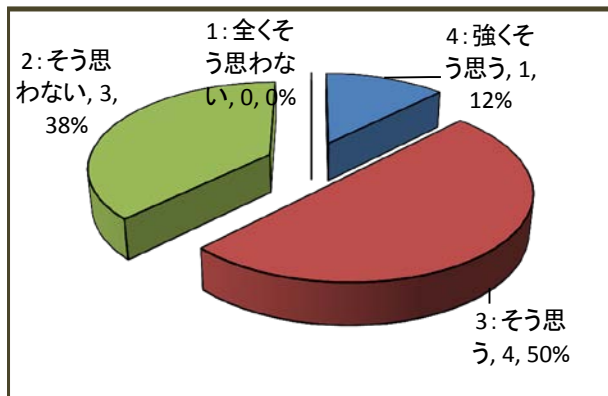
4と3あわせて、7件87%であり、ほぼ十分な研究設備が整っていると言える。2(そう思わない)の1件については、下記コメントにあるとおり、研究室周辺に宿泊施設が必要と考えているようであるが、これについて何らかの対応をすることは難しいと考えられる。

2-1) 十分でない場合、どのような機器が必要か。(自由記述)

・近隣に住む学生が生活できる施設(寮など)があれば、研究生活にさらに集中できると思う。現に、そのような施設がないため、学生控室に住み込んでいた学生もいた。

3) 図書室の蔵書は十分と思うか。

4 : 1件 3 : 4件 2 : 3件 1 : 0件 【平均2.75】



(コメント)

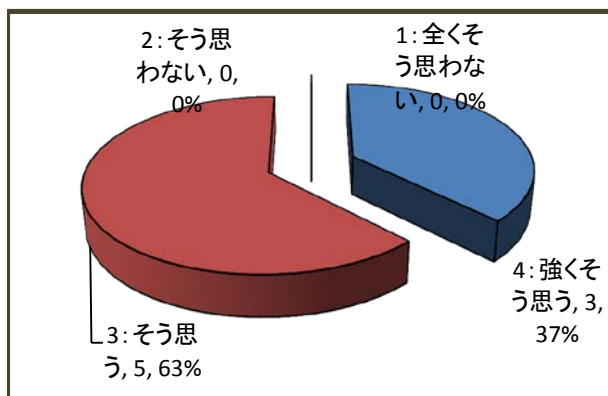
2のそう思わないが3件あったことから、一部の学生が図書室の蔵書に満足していない様子が見える。必要な書籍についてのリクエストを受け付けるなどして対応する必要があると考えられる。

3-1) 十分でない場合、どのような蔵書が必要か。(自由記述)

- ・極地研だからしょうがないが、南極関連の書物に偏りすぎている。
- ・もっと生物学の専門書などが必要である。

4) 利用できる電子ジャーナルの種類は十分と思うか。

4 : 3件 3 : 5件 2 : 0件 1 : 0件 【平均3.38】



(コメント)

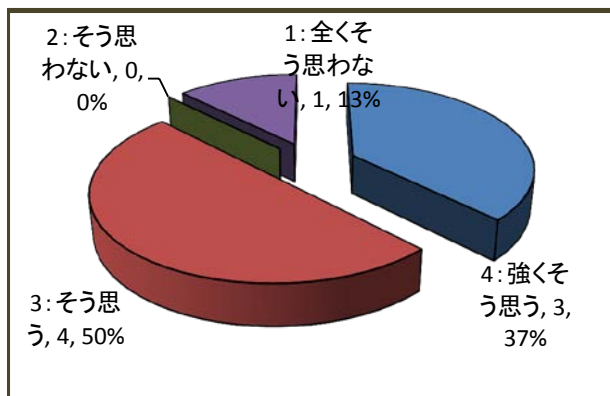
4と3あわせて、8件100%であり、学生は研究所で利用できる電子ジャーナルについて満足していると考えられる。

4-1) 十分でない場合、どのような種類の電子ジャーナルが必要か。(自由記述)

回答なし

5) 図書室その他の施設の利用はしやすいと思うか (利用時間、利用条件、利用手続き等の点から)

4 : 3件 3 : 4件 2 : 0件 1 : 1件 【平均3.13】



(コメント)

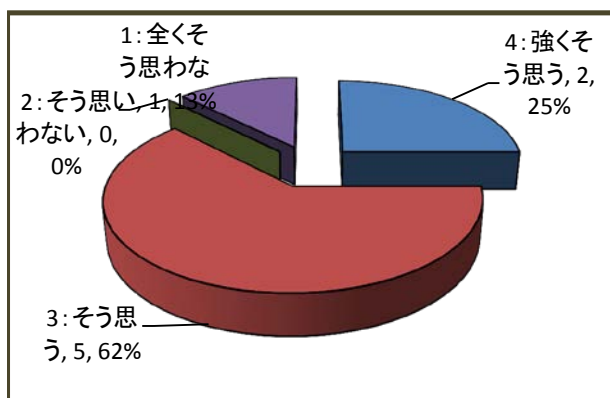
4と3あわせて、7件87%であり、利用しやすいと言える。利用したことがないとのコメントがあったが、図書室の利用方法については例年新入生ガイダンスの際に説明しているので、説明を受ける機会があることをより周知していく必要があると考えられる。

5-1) 利用がしづらい場合、どの施設がどのように利用しづらいか記載して下さい (自由記述)

・利用したことがない。

6) リサーチアシスタントは学生の研究能力向上に資するものとなっていると言えると思うか。

4 : 2件 3 : 5件 2 : 0件 1 : 1件 【平均3.00】



(コメント)

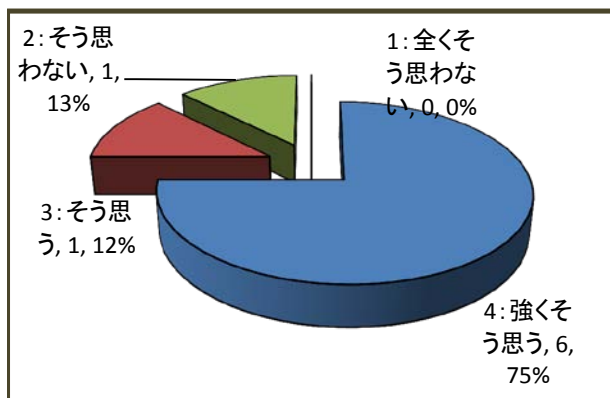
4と3あわせて、7件87%であり、RAが研究能力向上の観点から、およそその学生にとって資するものになっていると言える。1の回答が1件あったが、以下のコメントを見る限り、研究内容に直接は結びつかないものの、現状には満足している様子であるため、特に問題はないと考えられる。

6-1) 思わない場合、理由は何か。また、どのような対策が必要か。(自由記述)

・研究内容に活かせる内容とは思わないが、雑務をこなし自身の研究を進めるという経験が出来るので満足している。

7) 学生の研究活動支援対策（学生支援経費による交通費、宿泊費の支援、旅行時の傷害保険に専攻として一括加入等）は十分と思うか。

4 : 6件 3 : 1件 2 : 1件 1 : 0件 【平均3.63】



(コメント)

おおむね良好な結果であるが、2のそう思わないが1件あった。下のコメントを見ると、海外出張の際に日当が無いことに不満を持っているようであるが、専攻の決まりなので対応は難しい。

7-1) 思わない場合は、どのような問題点があるか。また他にどのような支援が必要か。

・海外出張の際に、日当を出して欲しい

(4) その他（その他意見、要望等を自由に記述して下さい。）

・大変良い環境で研究させて頂いています。
・研究生活を送る中で、どうしても徹夜で作業したいときがあり、そのようなときは椅子にもたれる形で仮眠を取っています。ただ、これでは十分な仮眠が取れないだけでなく、必ず翌朝に体が痛くなり不健康です。
そのため、「折り畳みベッド(1万円程度のもの)」があれば、これを改善できるだろうと考え、「研究生活を送る上で必要な備品」という名目で、総研大の経費での購入を依頼しましたが、これは認められませんでした。
学会発表前などは、特に博士後期課程の学生は研究結果をまとめるのに忙しく、(計画的に研究を進めていたとしても)徹夜せざるを得ない状況が出てきます。学生が健康に研究を行うための備品購入依頼なので、柔軟に対応して頂きたいと思っています。
・体系的な博士育成プログラムを構築するべきだと思う。現状は、1-5年次で必要単位を満たすように授業を履修すればよいことになっている。しかし本来ならば段階に応じて学ぶことは異なると感じる。次年ごとに決められた枠の中から必要な授業単位を履修する方法もあるのではないか。

5. 各項目におけるまとめ

(1) 研究指導について<項目(1)-1)~4)>

おおむね良好な回答であった。複数指導教員については、機能していないと回答した学生がいたことから、主任指導教員と指導教員の連携を見直し、効率よく学生の指導を行っていく必要があると考えられる。

(2) 教育課程(カリキュラム)について<項目(2)-1)~2)>

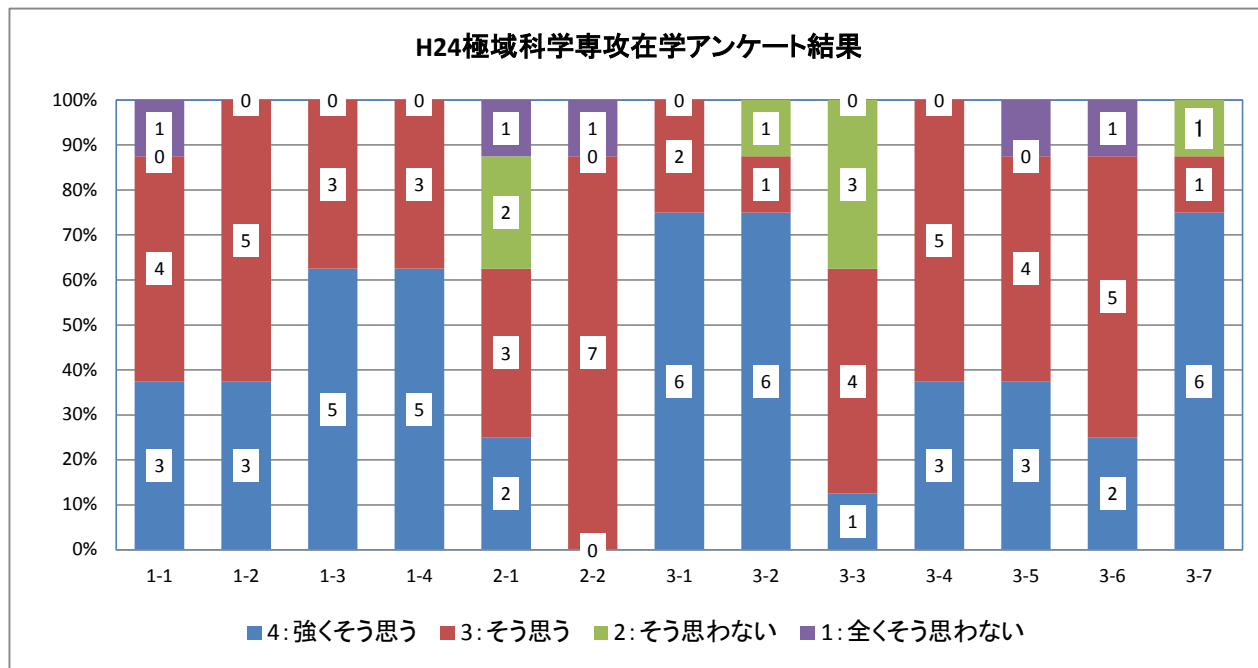
比較的低い回答であった。専攻としては、授業が博士課程の学生に必要な内容なのか、また他の科目とのバランスを考慮し、授業科目を構成する必要があると思われる。また、学生には、必要に応じ他専攻や他大学の授業を履修することを勧めることも必要であると考えられる。

(3) 教育研究環境(施設及び設備や経済的支援)について<項目(3)-1)~7)>

おおむね良好な回答であった。
図書室の蔵書が不足しているとの意見については、今後学生支援経費で対応可能である。
学生の日当については、専攻の方針であるので理解してほしい。

(4) その他

仮眠のためのベッドが欲しいとの要望が来ているが、専攻として学生が研究所に宿泊することを推奨することはできないので、学生支援経費で購入することはできないという方針である。学生には理解してほしい。
体系的なプログラムを構築すべきとの意見について、極域科学専攻では様々な分野の学生がおり、分野によっては長期出張により授業の履修が難しい時期もでてくることから、特に履修時の学年等枠を設定していない。



6. 今後の対応

平成25年度についても同様のアンケートを実施し、評価及び年度ごとの比較を行う予定。
今回の調査結果については、専攻委員会及び学生へ回付し、極域科学専攻HPに掲載する。